2015年（平成27年）
第96号
（12月1日）

平安月報

The HEIAN monthly report

発　行　所：立正佼成会　京都教会
発行責任者：渉外部長　田中規之
編集委員長：渉外広報　植田恭司
〒605-0041　京都市東山区三条東町 230
TEL (075)762-2211　FAX (075)762-2266

「開祖さま生誕会」　庭野会長　一切を「無上尊」として見る大切さ説く

庭野日敬開祖の生誕を祝い、菩薩行実践の誓願を新たにする「開祖さま生誕会」が１１月１５日、大聖堂はじめ全国各教会で行われました。大聖堂の式典には会員、来賓ら約４１００人が参集。

法話に立った庭野日鑛会長は、釈尊の誕生偈（たんじょうげ）の一節、「天上天下唯我独尊（てんじょうてんげゆいがどくそん）」の意味に触れ、一人ひとりが自らの尊厳に気づき、菩薩道を歩む大切さを示しました。

式典では、東京佼成ウインドオーケストラと佼成合唱団による『久遠の祈り』に合わせ、青年女子部員１６人が奉献の儀、続いて読経供養が行われました。この中で、導師を務めた川端健之理事長が庭野会長名の「啓白文」を奏上しました。

会員を代表して体験説法に立った那須教会青年女子部長（２９）は、昨年の七面山練成会を前に、会員宅を訪ねる「手どり」に取り組む中、手どりの活動に協力的でない部員を責める気持ちが湧きましたが、教えを通して自らを省み、支えてくれる仲間の有り難さに気づいた体験を発表しました。

また、今年は「教師」資格を拝受し、万人の幸せを願い続けた庭野開祖の弟子であるとの自覚が芽生え、教えを伝えてくれた両親に改めて感謝できたと喜びを語りました。

このあと、讃歎（さんたん）歌『誓いを胸に』の合唱に続き、昭和５３年にニューヨークで開かれた第１回国連軍縮特別総会で演説する庭野開祖のＶＴＲが上映されました。

法話に立った庭野会長は、「天上天下唯我独尊」の意味に触れ、「自らの尊厳に気づき、一度しかない人生を大切にすること」と説明。

「開祖さま生誕会」に当たり、一人ひとりが仏の教えによって**人格を磨き、親や先祖、多くの人々に安心してもらえる自分**になれるよう、仏教徒としての誓いを新たにすることが肝要と述べました。

また、一切の生きとし生けるものをこの上無い尊い存在である**「無上尊」**と受けとめていく大切さを強調し、**「あらゆる人たちが仏のお役をしてくださっていると見ることができる私たちに高まっていくことが、仏さま、開祖さまが一番喜んでくださること」**と説きました。

京都教会では恩師の生誕を祝い、青年・壮年部員によるマトイと万燈がお披露目され、今後の一層の精進を誓いました。

時事刻々

真如堂の本堂北側の池のほとりに「伝教大師関東巡錫之像」が立っています。８１５年頃に天台宗の開祖・最澄が東国に布教に歩いた姿を、仏師・西村公朝師が製作したものです▼平成２年に西村師が、延暦寺の故山田恵諦座主に依頼し、衣と帽子を被っていただきモデルとした製作されたそうです。その縁あって里坊・瑞応院（山田能裕住職）にも置かれています▼これを原型にして一回り大きな像が造られ、群馬県の浄法寺に安置されています。伝教大師はいくつもの難所を越えて、東山道を通って上野の国に入られたそうです▼８世紀初頭、朝廷が武力をもって関東・東北を平定した後、仏教の新しい風を吹き込み、精神的安定を図ろうとしたこともあって、大師の関東布教が行われました▼小さな荷物を首から下げて、錫杖一本を支えにして旅された大師の姿に、人々の幸福を願う心が見て取れます▼それからちょうど千二百年。軍事力だけでは、真の平和は訪れないということを、改めて考えさせられるものです。

今月のことば　～第二の矢を受けない～　　京都教会長　佐藤益弘

今年も様々なことが世界各地で起きました。特に先月１３日には、フランスの首都・パリで同時テロが発生し、１３０人もの犠牲者が出ました。心から哀悼の意を表するものであります。

さて、本会機関誌『佼成』12 月号では、会長先生から、**「第二の矢を受けない」**というご法話をいただきました。

前段の**「とらわれない」**というお話の冒頭に、雲水のことが綴られていますが、私は、『行雲流水』のような生き方が、とらわれないということの具体的な姿ではないかと想うのです。しかし、そうなるには日々の修行が要るということも忘れてはならないと思います。

修行僧のことを雲水といいますが、私が以前、福井市の街中で雲水の方々にお会いしたときの様子が今でも脳裏に焼き付いています。それは、雪が降る極寒の中にあっても、草鞋を履きながら、足の指先が凍るような状態であるのにも拘らず、顔の表情一つ変えることなく、ひたすらお経を唱え、歩かれていたお姿でした。

尊いご縁にあやかることが出来たと、合掌せざるを得ませんでした。當に、行く雲は大きな山にぶつかったとしても、山の両側を上手に分かれて前へ進んでいきます。また、川を流れる水は、たとえ岩や竹やぶに当たっても、サッと形を変えてその両脇を上手に通り抜けて流れていきます。言い換えれば、引っかからない、引きずらないということです。

会長先生のご法話のとおり、最初に抱いた感情にとらわれないこと、つまり「第二の矢」を受けないことによって苦楽の海に溺れることがないということを深く学びました。後段では、そのためには、**心をうまくコントロールする**ことだと、教えてくださっています。しかし、そのようには中々できず、私自身苦労する毎日です。

先日も、定期健康診断で再検査をするように言われ、ＣＴの造影検査をして頂くため佼成病院へ行きました。その日の朝、食事を抜いて家を出発するつもりでした。家内も「今朝は、ご飯を食べないのよね」と言いながら、味噌汁ができたけど飲む？と聞かれたので、「今日は血液検査がないから、大丈夫だろう。頂こうか」と返事をして頂戴してしまいました。

その直後に、検査の説明書を見たら、「検査の４時間前は水以外、何も摂取してはならない」との一文が目に入り、慌てました。その後、病院に行き、「味噌汁だけ飲みました」（本当はご飯も食べましたが、これは内緒にして）と申告して、なんとか許可をもらって検査を済ませました。

だから、当初の予定通りにしてくれればよいのに、味噌汁など作って、飲まないかなどと誘惑するから、こんなことになってしまったと家内に文句を言いました。釈尊は、**「妻は最上の友」**とお説きくださいましたが、この時は悪友としか思えませんでした。

でも、心を耕してみると、夫がお腹を空かせて出かけるのは辛かろうという真心からのサービスだったのだから、家内に感謝せねばという気持ちになりました。お蔭様で無事に検査もでき、からだの異常もなく、第二の矢を受けることなく帰宅できたのです。

今年一年、有り難うございました。

合掌

「よりよい社会を築くために私ができること」　―　政治学習会を開催　―

11 月 1 日の午後、京都教会法座席に於いて**「よりよい社会を築くために私ができること」**をテーマに、政治学習会が開催されました。会員約 130 名が参加し、佐藤教会長から研修を受けました。

「ニッポンの政治はどんなイメージ」「政治ってなに？」「私ができることってなに？」などについて、グループワークを中心にして、本会の政治への取り組みや、教会や支部で出来ることを学び合いました。

その後、質疑応答が行われ、具体的な取り組みについて、積極的な意見の発表がありました。この勉強会は今後も継続される予定です。

子供と一緒にサツマイモ作り

西京支部婦人部長　平林希予

10 月 24 日、西京支部の婦人部・少年部で、サツマイモの芋ほりをしました。今年の春に支部の会員さんから「子供たちの手でサツマイモ作りをするのはどうですか？」と提案して頂いた事がきっかけで、少年部育成活動の一環として始めました。

ご提案して下さった会員さんのご指導のもと、５月下旬にまず畑を耕すことから始めました。でも、土を柔らかくするのは容易ではありません。お父さんたちの力も借りて耕し、子供たちの手で芋の苗を植えました。

６月・７月・８月と水まきをして下さり、その間にぐんぐん芋も育ちましが、周囲には雑草もどんどん生えて来たので、その雑草取りも子供たちと共に楽しくさせて頂きました。大きい芋を掘るのはとても大変でしたが、何とか自分の力で掘り起こそうと、子供たちは一生懸命に頑張っていました。

お陰さまで、数えきれないほどの芋を収穫することができて、大人も子供も大満足でした。最後に、焼いてもらったお芋をみんなで食べて、笑顔いっぱいになりました。「どんなお芋が出来るかな？」と、とっても楽しみにしていた９月のつる切りの日、試しに少し抜いてみると子供の顔より大きな芋が出来ていました。子供たちも大喜び。

そして迎えた当日、子供12名と大人11名で待望の芋ほりが始まりました。今回、半年かけてサツマイモ作りに子供と共に参加し、**食べ物の大切さや感謝の気持ちを体感しながら子供たちと学ぶことができ、**とてもありがたい時間だったと思います。

やはり、子供同士の力というのは素晴らしいもので、芋ほりという手段を通して、**ひとつのことに力をあわせて作業したこと**が、とても良かったと思いました。

また、芋ほり参加のお声掛けをする中で、**新たな方とのお出会いもたくさん頂き、**感謝の気持ちで一杯です。ご提案して下さった会員さんご夫妻をはじめ、陰ながら私たちを支えて下さった支部の皆さま、ほんとうにありがとうございました。

全国壮年幹部大会　観音菩薩になるために、普門環スパイラルをひろげる

11 月 7～8 日、ご本部において全国２３８教会８３５名の壮年と光祥さま（壮年本部長）、鈴木寛先生（社会創発塾々長）、川端教団理事長（壮年総代）、出射布教開発部長（実行委員長）出席のもと、壮年幹部会が開催されました。

京都教会からも代表者３名が参加しました。本会のねらいは①「壮年布教のめざすもの」を発表し、共有・理解を深め、壮年菩薩ダーナみんなで取り組むことの伝道宣言を作成する②参集したダーナと共に信仰の醍醐味・時代を牽引するこころで布教を語り合い、主体的な壮年布教の高揚を図る。であり、「俺たちの伝道宣言」（全国版）を２日間に渡って作り上げるものでした。

その元となる資料として過去の壮年幹部会のエッセンスを一冊にまとめた『ダーナ魂』が配布されそれを熟読し、他教会の壮年さんと熟議を重ねました。

その熟議の中から１日目は教会ごとに「渾身の善行」を“どこで”“何のために”するのかを一文にまとめて提出。２日目は教区ごとに分かれ、前日のものを更に熟議し賛否両論の白熱した話し合いを経て数種類に集約。それを次の行程として全員が一堂に会し各教区代表者がプレゼンし、光祥さま、鈴木先生の力をお借りし一文にまとめ上げられました。

それが【「俺たちの伝道宣言」：観音菩薩になるために、普門環スパイラルをひろげる】です。どの壮年さんも活動状況や思いを熱心に話され、いい顔をされていたのが印象に残りました。ありがとうございました。

合掌

「形から推し進める平和」　～庭野開祖著『平和への道』より～

前回は「『心から展開される平和』が根底になると」いう庭野開祖の考えを紹介しました。続いて「形の上でどう推し進めて行くか」という点について、著書を見ていくことにします。　（編集部）

平和を実現するためには、人の心を変えていかねばならない――これは根本の大道であり、絶対に欠くことのできない大事です。かといって、形の世界に現れる政治・外交・経済・文化といった面を、そのままに放っておいていいというのではありません。こうした現実の世界についても、具体的な目標を持ち、具体的なプランを立てて、一歩一歩着実に人類の福祉と平和を推し進めていかねければなりません。

ローマン・ローラン（フランスの文豪で平和論者）は、こう言っています。「平和を欲するだけでは不十分だ。その平和の条件をも欲しなければならない。そして、まず初めにその条件を知ることだ」と。

では、その条件とは何か。具体的な目標として、どんなものを立てなければならないか。――まず最大のものが**「非暴力」「非武装」**にあることは、だれも異論をさしはさむ人はないと思います。

われわれは**「他を信用できないからこそ武装する」**のです。他を信用できれば、武装する必要はありません。わかりきったことのようですけれども、これが武装・非武装の問題を考える根本となるたいせつなカギとなるものですから、あえて申し上げます。

ところが、われわれは、このわかりきったことの逆の真理を、つい忘れがちなのです。すなわち「武装している相手は信用できない」ということです。相手は懐中に短刀を忍ばせている。自分は何も持っていない……となれば、どうしても神経をとがらせざるをえません。警戒しないわけにゆきません。

そこで、自衛のためと称して自分も短刀を携えることになります。そうなりますと、お互いが相手を疑い、その疑心が暗鬼を生じ、ちょっとしたことで短刀を抜き合ったり、血を流し合うようなことが起こるのです。

つまり「他を信用できないから武装する」ということと「武装している相手は信用できない」ということのイタチゴッコが、そういう不幸な状態をひき起こしているわけです。

国と国の関係も、そのとおりです。武装している相手は、心の底から信用するわけにはゆきません。そこで、こちらも武装を固めて、いざというときに備えようとします。そうすると相手は、もっと軍事費を増やして万一の場合に負けないように……と考えます。そこに、果てしない軍拡競争が始まります。

ましてや、戦争が起こったら、どういうことになるでしょう。核兵器・生物兵器・化学兵器が発達している今日では、人類破滅か、それに近い大惨事となることは必至です。ですから、どんなことをしても戦争だけは回避しなければなりません。

それでは、戦争を回避するにはどうすればよいかということですが、先に述べた「武装している相手は信用できない」という原理に基づいて、**軍備を撤廃することです。武装をやめることです。**これが、地球上から戦争をなくす最も直接的な、そして最大の道なのです。

1995 年の国連総会に、全加盟国が「全面完全軍縮に関する 82 カ国決議」を提案し、全会一致で採択されました。それは通常兵器を含む各国の軍備を完全に撤廃するという大目標を、世界の国々がこぞって打ち立てたことを意味し、とにもかくにも、戦争回避の手掛かりができたわけです。しかし、その後の 10 年間の推移は、必ずしもはかばかしい進展をみせていません。けれども、人類の意思が軍備撤廃の方向へ一歩二歩と歩み出していることは事実であって、われわれは勇気と忍耐をもって、その推進にあらゆる努力を払わなければなりません。

１２～１月の主な教会行事

12 月 1 日(火)	9:00～	朔日参り・布薩の日
4 日(金)	9:00～	開祖さまご命日
8 日(火)	9:00～	成道会
10 日(木)	9:00～	脇祖さまご命日
15 日(火)	9:00～	釈迦牟尼仏ご命日
1 月 1 日(祝)	6:30～	元旦参り
10 日(日)	9:00～	脇祖さまご命日
15 日(金)	9:00～	釈迦牟尼仏ご命日
24 日(日)	10:00～	京都教会成人式
24 日～31 日	6:00～	寒中読誦修行

●メッセージ

フランスで大規模テロが発生し、各国が空爆によるテロ壊滅を表明、賛同しました。フランスのある民間人が「テロを起こした人も自分たちの仲間を殺されたんだから仕方ないよ…」とテレビのインタビューで答えられている姿を拝見しました。

その言葉に暴力による連鎖を断ち切ろうとされていると感じました。庭野開祖が国連で説いた**「危険を冒してまで武装するよりも、むしろ平和のために危険を冒すべきである」**という言葉を今こそ一人ひとりに自分のものにする必要があると思うのです。